

協働事業の担い手として



代表理事 伊藤 信吾

今年度は、サポートセンターの運営が「委託事業」から「協働事業」へと移行しました。従来は、市の仕事を市民会議が受託を受け、市の代わりに運営するという位置づけで

した。しかしながら、本年度からは協働事業として、市と一緒にサポートセンターを運営していくことになります。

その結果、我々もサポートセンター運営資金を負担することとなっています。本年度の予算では、コピー代利用料収入・ホームページバナー広告収入・広報誌広告・委託販売手数料収入・バナー広告収入など総額50万円を見込んでおります。

うがった見方をすると、「市民に負担をさせるために委託制度を止めたのだろう」となりますが、ホームページが市民会議の運営となりましたので、バナー広告を設置することが可能となるなど、新しい試みを実施する土壌が整ったと考える方が前向きだと思っています。

いずれにしろ、市民会議のメンバー全員で、サポートセンターを中心に市民活動の輪を広げるべく頑張っていきましょう！

ご本人作似顔絵→



市民活動フェスタ

成功に向けて

総務渉外委員長 西 智巳
(理事)

皆さんこんにちは
本年も引き続き総務渉外

委員会の委員長を務めることになりました西智巳です。昨年は私自身初めてのさがみはら市民会議での活動ということもありましたが、主に2回の利用者懇談会と12月の定例会を担当させていただき、皆様のご協力により何とか無事に終えることができましたことを感謝申し上げます。

さて、本年度総務渉外委員会では、市民活動フ

ェスティバルを中心に活動していきたいと思ひます。まずは、市民活動団体の情報発信の支援事業という位置づけで、7月14日に開催を予定しています、サポセン「おしゃべりナイト」を成功させ、11月11日、12日のフェスティバル本番へ向けて進んでまいりたいと思ひます。二日間にわたり、シンポジウム、交流会、活動発表と多くの方に参加をしていただきながら、今後の更なる市民活動の活性化に繋げていきたいと思ひます。

最後になりますが、本年度もさがみはら市民会議の会員皆様の活動がより活発に、よりスムーズに行えるように、頑張っていきますのでどうぞよろしくお願ひいたします。(副委員長:藤岡理事)

話し好きの皆さんと

政策情報委員長 西本 敬
(理事)

こんにちは、西本です。この市民会議発足の時からずっと理事で、何をやってきたかという、ひたすら皆さんの話を聞くことでした。結構面白い話がありますよ。「へ～へ～へ～」というやつです。一体何百へ～までいったか？

政策情報委員会は多彩なメンバーです。斎藤理事、窪田理事の両副委員長そして伊藤代表、大島、菅沢、寺崎監事、東條、長谷川など多士済々です。(敬称略)会議ではほとんど何かの話に夢中になってしまいます。横道にどんどんそれてしまつて、決めるのは最後の10分です。

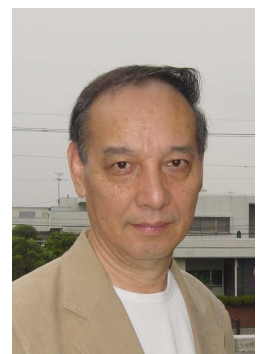
今年、合併後を見据えた展開を考えています。新市の仲間になった旧2町、合併予定の2町と旧相模原市それぞれの市民活動団体の交流と都市内分権を考えるという活動計画を立てつつあります。

会員の皆様おしゃべりの仲間に入りませんか。待っていますよ。

交流の場作り

ネットワーク委員長
神田廣志(理事)

ネットワーク委員会は「トークサロン」や「市民活動フェスティバル」など、市民活動の連携をめざした交流活動を担当する委員会です。「トークサロン」は団体同士のネットワークと新しい出会いの場をつくるため、広く一般市民にも呼びかけて開催しています。昨年



は年4回開催し、今年は回数を増やし、年5回開催する予定です。今後は毎月1回の開催に向けてやり方を検討中です。

いいアイデアがあれば、ネットワーク委員会まで、お知らせ下さい。

現在のネットワーク委員会は9名です。ネットワーク委員会は原則として、第三金曜日の午後1時からサポートセンターのフリースペースで定例会議を行っています。興味のある方は是非参加してみてください。お待ちしております。(副委員長:早田理事, ニツ森理事, 鹿野前理事)



市民会議の理念と サポセン

さがみはら市民活動サ
ポートセンター事務局長
関口良三(理事)

事務局長として2年目を迎え、いくつかの課題も見てきました。最も重要なのは、市民会議の大きな役割としてのサポートセンターをどのように運営していくかです。具体的には、スタッフ採用の問題、スタッフ業務内容や人間関係、人件費やボランティア活動時間等が考えられ、市民会議としてめざすサポートセンターのあり方を充分討議すべきです。センターを統括し市民会議とのパイプ役を担う私は責任重大であり、スタッフに対しては今まで以上に市民会議の方針や考え方を理解してもらい、より円滑な運営をすること、また市民会議の会員にもセンターの実態を理解していただき、相互に発展していくべきです。

..... 聞いてみました

知っていますか外国人市民会議



外国人市民を中心とした「外国人市民会議」の活動が今脚光を浴びている。市内鹿沼台にある

プロミティふちのベ2階にあるさがみはら国際交流ラウンジは外国人と共に生きる住みよい環境づくりを進めるために、相模原市に在住する外国人市民への情報提供の場、外国人市民及び外国人市民を支援する団体の活動の場、国際交流の場として

設置されている。

この通称ラウンジに集う外国人市民を中心として外国人市民会議が開催されたのはラウンジ1周年の1997年だった。その後この会議は中断し、復活したのが2003年のことだった。翌2004年1月には「外国出身者がかかえる教育の問題」、さらに同年5月には「進学と就職」というテーマでいずれも教育問題に焦点をあてて討論会を開催した。さらに12月には「外国人が抱える就職の現状」として体験を通した生々しい報告があった。

これらの会合では未だに残る外国人差別の現状など、幅広い市民の理解を深めていくことの必要性が叫ばれ、翌2005年11月には地域の自治会連合会長など地域の住民代表者との会合がもたれ、「地域社会と私達外国人」をテーマに話し合いがおこなわれた。この中で、お互いに違いを認めあい、ともに地域社会を造っていこうということが確認されるなど、相互理解が大いに進んだ。

一方、相模原市ではさがみはら人権懇話会の提言を受け、「外国人市民の市政への参画機会の拡充」を重点課題として、「市長と外国人市民の懇話会」を実施するなど外国人市民が抱える課題を理解し、施策に生かすなど住みよいまち造りに努めている。

このような行政の努力もさることながら、一連の話し合いの場で確認されたように市民同士の相互理解こそがともに生きる社会の実現にとっては重要である。外国人市民会議が仕掛ける様々な対話に今後も期待が集まる。

NPO法人緑のダム北相模

津久井地域のNPOを訪ねて

新しく相模原市となった二町の市民活動について取材した。旧津久井町には七つのNPO法人がある。旧相模湖町には三つだ。内容を見ると福祉分野に次いで、地域柄か自然環境保全を行なっている団体が多い。

その中のひとつ「NPO法人緑のダム北相模(理事長永井宏一)」を取材した。事務所は都内世田谷区内にある。ここは理事兼事務局を兼ねている石村黄仁さんのご自宅だ。

活動としては、最低月二回相模原市相模湖町内の山に集まり、森林保全活動や古道の復活、あるいは森林体験学校などを行なっている。毎回約百名が集まっているそうだが、残念ながら地元からの参加は少ないという。しかし最近では地元住民はじめ地域から多くの協力を多く得ているとのこと。

合併に関連して「今まで培った現場のノウハウを、新相模原市の森林整備に活かしたい」と語る。会の

機関紙を拝見したが、既に相模原市役所の担当者と意見交換した記事もある。

合併自体が短期間で行なわれたため、どうしても市民同士、互いのことについて知らない。行政主導で進んだことも原因だろう。この穴を埋められるのは、市民側の努力しかない。市民活動をしている多くの人間が、率先して、個人や団体同士の交流を図っていくべきだ。

さがみはら市民会議が運営するさがみはら市民活動サポートセンターについても、その役割はますます重要になっていく。合併によって市民活動の可能性がさらに大きくなることを期待したい。

境川の斜面緑地を守る会

(NPO法人設立認証申請中)

相模原市の北側の境界を流れる境川、その「境川斜面緑地」は市街地の中に残された緑の帯である。境川が十万年の時間を掛けて作り上げた急傾斜な崖地が人の手を拒み、市街地のど真ん中に奇跡的に連続した斜面林が残った。

この斜面は市内で唯一の北斜面であるため、氷期の遺存植物である春植物(スプリング・イフェメラル)が生育している。ヤマエンゴサク・アズマイチゲ・アマナ・ヤマブキソウ・ワダソウなど県のレッドデータブックで絶滅危惧種となっている植物が多数見られ、「相模川斜面緑地」や「こもれびの森」などでは代替できない貴重なものである。

境川斜面緑地を守る会(香村紘一代表)はこの緑地を守る活動をしてきた。①動植物総合調査、②相模原市緑地保全基金への募金活動などであり、説得力あるデータを得るための調査活動である。自然観察会や総合学習の支援、会報などでの情報発信も大切な活動としてきた。

ところが、この緑地にマンション建設問題が発生した。署名活動、シンポジウム開催、市への陳情など考えられるあらゆる手段を駆使して、公的保全を求めてきた。相模原市も買取交渉に入ったが、その前に開発許可を下ろしており、後手後手にまわり極めて無念な結果となった。それでも相模原市が境川斜面緑地を買い取ってでも残すべき緑地と認知したことは、大きな前進であった。

同会は平成二十年をメドに策定される「さがみはら水と緑の基本計画」には、自然環境軸の一つとして境川がしっかり位置づけられるよう、粘り強い活動を続けるという。

七月上旬にはNPO法人化し、より責任ある活動を目指す。環境の時代と言われながら、開発圧力は治まらず、生物多様性の保全が広く世論となり政策に反映されるまでには、まだまだ遠い道のりがある

と感じている。

参加してみませんか
境川クリーンアップ作戦

第6回境川クリーンアップ作戦のご案内



日時 : 7月30日(日)9:30~12:30
(下流一本さくらは9:00開始)

場所 : ひのき橋~親水広場~金山橋

<http://sakaigawa.exblog.jp>

境川クリーンアップ作戦は、町田・相模原の両市民が力を合わせて、両市の間を流れる境川の清掃活動を実施し、両市民の交流と境川の環境保全を目指して活動しています。みなさまも奮ってご参加下さい。

軍手、長靴、ゴム手袋、ゴミ袋など清掃に役立つと思われるものを持参下さい。

説明会:7月21日(金)19:00~

町田市民ホール 第3会議室

展示会:7月27日~31日 10:00~18:00

町田市民ホール 第2ギャラリー

主催 : 境川クリーンアップ作戦実行委員会

事務局:町田法人会青年部会

042-726-2453

今年度最初の会報です。2006年度が始まりました。年々私たちを取り巻く状況は変化しています。昨年と同じではない今年の活動。市民会議は柔軟でしなやかです。

1年間よろしく申し上げます。

(T.N.)